

文人畫選

第一輯 第三冊

特280-13



1200501132462

12.80

13

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



文人畫選 第一輯第三冊

歸堂學人 大村西崖鑒輯

一 元曹知白石岸古松圖 紙本淡彩 高一尺九寸五分 闊一尺一分

東京 山本二峰君藏

曹知白。字は又元。一の字は貞素。雲西と號す。華亭の人なり。至元中、崑山の教諭たり。山水郭熙を師とし、平遠は李成を師とし、筆墨清潤なり。官に居りて意甚樂まず。遂に辭し去り、隱居して易を讀み、或は筆を放ちて畫を作り、或は響を撤して長嘯す。人其際を窺ふなし。南宋の咸淳八年に生れ、至正十五年に卒す。歳八十四。本圖は其遺作中最佳なるもの、一にして、蒼古奇逸、迥に作家の窠臼を超脱し、仙氣人に逼りて、幾ど火食を斷たしめむとするの趣あり。學者須らく這般の境界に參契して、能く其關樞を透得せば、みづから古を爲すも、復決して難からざるなり。沈石田一絶を題す。曾て乾隆内府の寶たりしこと、其五璽の鈴あるにて知らる。

二 陳汝言碧水青峰圖 紙本水墨 高一尺四寸一分 闊八寸三分

東京 山本二峰君藏

陳汝言。字は惟允。秋水と號す。兄汝秩と共に大髯小髯の稱あり。山水趙魏公を宗として、清潤愛すべし。王叔明と友とし善し。性個儻にして謀略あり。嘗て張士誠の軍事に參す。明の洪武の初、薦を以て濟南の經歷に任じ、事に坐して死す。難に臨み、從容として翰を染め、畢りて刑に就く。著秋水集あり。此幅小品と雖も、以て其面目を窺ふに足る。亦乾隆鑑賞の一にして、御題の贊あり。

三四 明沈周太湖圖卷 紙本水墨 高一尺五分五厘 橫長五尺二寸九分

東京 副島延一君藏

沈周。字は啓南。白石翁と號す。世に石田先生と稱せらる。山水花卉皆善くせざるなし。少時作る所、盈尺の小幅多し。

年四十を超えて始めて大幅を爲る。粗枝大葉、草々にして成る。唐宋の名流、上下千載、縦横百輩、兼總條貫せざるなし。唐伯虎文徵明の如き、皆其龍門より出で、往々風雲の表に致す。當時の藝苑、誰か當に並馳すべきやを知らざるなり。其書は黃庭堅を法とし、文は左氏を學び、詩は白樂天蘇東坡陸放翁を學ぶ。人と爲り耿介獨立、年十一にして南都に遊び、百韻の詩を作りて上る。巡撫侍郎崔恭面試して鳳凰賦を爲らしむ。筆を授いて立どころに就る。恭大いに嗟異す。長ずるに及びて、羣書窺はざるなし。終身隱遁して仕へず。風神蕭散、碧眼飄飄、儼として神仙中の人の如し。文翰揮映、百年來過ぐる者なしと謂はる。宣德二年に生れ、正徳四年に卒す。歳八十三。著す所、客坐新聞、石田詩鈔あり。此卷石田を首として唐伯虎、文徵明、共に潘半巖の爲に太湖の景を畫きたるもの、三家の蹟を集めて一卷を成し、末に乾隆皇十一子の跋文あり。今掲ぐる所は、即ち石田の作にして、その蒼勁の筆致、最善く平生の長技を發揮せるを見る。唐文二家の蹟は後冊に載すべし。

五 唐寅采藥圖

紙本水墨 高三尺一寸八分 闊一尺六寸五分

東京 山本二峰君藏

唐寅。字は子畏。一の字は伯虎。六如と號す。吳縣吳趨里の人なり。弘治十一年應天解元に擧げらる。畫周東村を師として、青藍より出で、宋元の諸家、探討せざるなく、山水人物花草、皆兼ね善くす。評する者謂ふ。遠く李唐を攻めて偏師に任ずるに足り、近く沈周に交はりて半席に當るべしと。古文詞を工にし、詩歌は白居易の體に仿ひ、書は趙吳興の法を得たり。賦性疎朗、任逸不羈、頗る聲色を嗜み、酒を縱にして諸生の業を事とせず。祝允明之を規む。乃ち舉業を修む。既にして事に坐して廢む。嘗てみづから署して江南第一風流才子と曰ふ。寧王宸濠幣を厚くして之を聘す。其異志を察し、伴りて清狂不慧を以て免れて歸り、詩畫を以て自適して身を終ふ。晩年佛氏を好み、圓を舍北の桃花場に治し、日に其中

に飲む。成化六年生れ、嘉靖二年卒す。歳五十四。著畫譜及集あり。世に傳ふ。遺作我が國に流傳せるもの、山水最も多し。人物に至りては、本圖の如き佳品極めて罕なり。草々の縦筆、以て其才分を察するに餘りあるを見る。

六 馬守眞芝蘭共壽圖

紙本水墨 高三尺六寸一分 闊一尺一寸七分

東京 副島延一君藏

馬湘蘭の小傳は前冊に出でたり。此幅天啓七年畫く所。蓋し晩年の佳作なり。

七八 清邊壽民畫冊

紙本水墨 各頁 高八寸 闊一尺二寸

臺灣 林 熊 光君藏

邊壽民。一の名を維騏と云ふ。字は頤公、又漸僧と云ひ、葦間居士と號す。山陽の諸生なり。好みて潑墨を以て蘆雁を寫す。江淮の間、頗る譽あり。蓋し林良の迹に仿へるなり。傳へ云ふ。葦間に屋を結び、其中に住宿して、以て雁の神趣を尋ねきと。我が國に流傳せる壽民の蘆雁圖、多くは贗偽にして佳品罕なり。此冊其著名の蘆雁に非ずして、花卉雜畫却りて最雅趣に富めるを見る。今其梅松兩頁を掲ぐ。一體以て全冊の妙味を賞するを得べし。

九 梅清西津峽圖

紙本水墨 高五尺六寸九分 闊一尺七寸七分

東京 滑川 澹如君藏

梅清の小傳は初冊に出で、此幅前掲桃花潭圖と聯幅の一なるべきこと、亦既に之を言へり。併せ看るべし。

十 釋道濟送別圖

紙本淡青綠 高五尺一寸三分 闊一尺八寸七分

東京 副島延一君藏

大滌子の小傳は初冊に出でたり。本圖は其遺品中稀に見るの力作にして、樹石の妙、雲煙の奇、眞に古今を睥睨し、造化を譏弄して、象先に獨歩するの概ありと謂ふべし。

十一 吳偉業墨菊圖

紙本水墨 高四尺一寸三分 闊一尺二寸五分 五厘

東京 滑川 澹如君藏

吳偉業。字は駿公。梅村と號す。太倉の人。明の崇禎四年の進士なり。清に仕へて官祭酒に至る。博學にして詩を工にし、

名區字に滿つ。其畫山水、董黃の法を得て、清疎韶秀、風神おのづから貴ぶに足れり。曾て畫中九友歌を作りて之を紀す。董其昌、王時敏、王鑑、李流芳、楊文驄、程嘉燾、張學曾、卞文瑜、邵彌是なり。萬曆三十七年生れ、康熙十年卒す。歲六十三。集あり。世に傳ふ。其畫蹟我が國に存するもの多からず。此幅以て鑒賞の渴を醫するに足る。

十二 吳歷村莊歸棹圖 紙本水墨 高四尺六寸三分 闊二尺一寸二分

東京 山本二峰君藏

吳歷。字は漁山。墨井道人と號す。明の文恪公訥の後なり。少時王石谷と共に王時敏の門に學ぶ。人と爲り簡遠不羣。琴を彈じ、詩を詠じ、畫を作るに、皆高韻あり。其山水元人を宗法として、尤大癡に得る所あり。疊嶂層巒、心思獨運して、氣暈沈鬱。六家中最適勁を以て勝る。嘗て家を棄て、西洋に至り、歸後上海に隠れ、或は澳門に在りて、耶穌教會に入れりと云ふ。此幅梅道人を臨して畫く所。日東流傳遺作中の絶品なり。

十三 華岳瘦馬圖 紙本淡彩 高四尺五寸七分 闊二尺六分

東京 林屋秋嶺君藏

華岳。字は秋嶺。新羅山人と號す。閩の臨汀の人にして錢塘に居り、維揚に客たること最久し。人物山水、花鳥草蟲を兼ね善くし、皆時習を脱去して、生面を獨開す。詩に長じ書に工にして、三絶と稱せらる。此幅例に依りて奇致横溢、以て其特徴を観るに足れり。

十四 朱淪瀚指畫山水圖 紙本淺絳 五尺九寸 闊三尺一寸一分

東京 林屋秋嶺君藏

指頭畫を作ること清朝に至りて盛なり。鐵嶺の高其佩最も名あり。朱淪瀚勇氏の縁を以て其法を傳へ、好みて巨幅を作る。氣味渾厚。一時の優なり。淪瀚は明の宗室にして、清朝の旗籍に隸し、康熙五十一年武進士たり。曾て御史に官し、都統に至る。此幅一見筆畫の如く、以て指頭爪端の亦能く墨を使ふに堪へたるを見るべきなり。

五 夫董邦達山水册 金箋水墨 各頁方一尺三寸六分

東京 黒澤禮吉君藏

董邦達の小傳は前册に出て、誤りて此册の評説を掲げたり。前册の畫册は菊池惺堂君の所藏にして、山水花卉十頁各頁高八寸一分 闊一尺、水鳥又は淺絳の二にして、正に此に掲ぐる所と錯誤せり。今之を正して以て讀者と所藏者とに謝す。

十七 日本高久靄崖指日高昇圖 紙本淺絳 高四尺三寸一分 闊一尺四寸一分

東京 高橋雄峰君藏

十八 曹知白石岸古松圖款題

十九 陳汝言碧水青峰圖、沈周太湖圖卷、唐寅采藥圖、馬守眞芝蘭共壽圖、邊壽民畫册、吳偉業墨菊圖款

印

廿 梅清津峽圖、釋道濟送別圖、吳歷村莊歸棹圖華岳瘦馬圖、朱淪瀚指畫山水款印

石岸古松

癸卯年秋

高青



石岸古松欲插天手栽  
今已八十年主人甲子何  
須問生在南山北海前  
丙午秋日沈月題













高泉落浦玉潔採藥歸來意  
自仲人為利名間不得吾能此  
地着吾踪晉昌唐寅

天啓丁卯仲夏月... 吳文士

湘南... 吳文士



欲与梅  
常作友  
不令  
原不  
令不  
欲与  
梅  
常作  
友  
不令  
原不  
令不  
欲与  
梅  
常作  
友  
不令  
原不  
令不





留雨霜皮紫  
百龍含風挾浪老  
龍愁狂束筆  
底生雲霧直送  
蓬峇峰頂頭  
華間居士  
邊壽民并兒





霜落風高滿徑香  
愛他姿致近重陽  
一生種得花  
成癖 秋點秋宮傍草堂 吳偉 畫







梅道人村莊歸舟圖  
至升道人肥於此後  
許氏之批榮堂





秋風  
雁  
遠  
志  
一  
鳴  
震  
幽  
谷  
新  
首  
之  
寫  
行  
雜  
地  
居  
圖



松林山景  
丁巳年夏月  
畫於上海  
吳昌碩







指日高昇

丙子年  
清江畫

曹雲西石岸古松圖款印

# 石岸古松

雲西先生畫贈

丙申高青



同上 沈石田贊



石岸古松欲拂天手栽

今已八千年主人甲子何

須問生在南山北海前

丙午秋日沈石田題



沈周

沈周太湖圖款印

吳偉業  
墨菊圖款印

吳偉業

沈周

沈周

唐寅

唐寅采藥圖  
款印

馬守真

馬守真

馬守真畫冊款印

至正元年秋月  
寫惟允陳山水

陳惟允山水款印

馬守真

馬守真

湘蘭女史馬守真

馬守真

馬守真湖石鈎簾圖款印

墨井老人臨於昆陵  
新羅山人寫  
許氏之槐榮堂

吳歷村莊歸棹圖款印



華富瘦馬圖款印



朱海翁指頭畫



朱淪海指畫山水款印

釋道濟送別圖款印

甲印春仲清湘弟大滌子偶意



梅清西津款印





大正十年十月九日印刷  
大正十年十月九日發行  
編輯者 大村西崖  
東京市牛島區矢野町三番地舊十二號  
發行所 丹青社  
東京市牛島區矢野町三番地舊八號  
水上市齊  
振替口座東京二七四零番

終

